近代語コーパスにみる「結果」の用法

髙橋　圭子（東洋大学・非常勤講師）
東泉　裕子（東京学芸大学・非常勤講師）

Usage of *kekka* in Modern Japanese Corpora

Keiko Takahashi (Toyo University)
Yuko Higashiizumi (Tokyo Gakugei University)

要旨

現代日本語においては、「結果」などの名詞が、文頭または文中で副詞的・談話標識的に使われることがある。しかし、その成立に至る過程はまだ明らかにされていない。そこで、本発表では、「結果」の近代以前および近代語における用法を詳細に観察・記述する。そして、「結果」の用法を通時的に検討し、現代語の副詞的・談話標識的用法につながる過程について考察する。今回の調査・観察に基づき、次の３点を指摘する。(1)「結果」の語は、幕末から明治の初めごろ、現代のような意味で用いられるようになったと思われる。(2)「結果」の用法は、典型的名詞用法から名詞と副詞の中間用法を経て副詞用法に拡張したと考えられるが、そのプロセスは直線的ではなく複雑である。(3)「結果」を用いた副詞句・節の用法は、時の経過とともに、形式が簡略化され、且つ句読点の直後に用いられる例が増えてくる。この結果は、歴史語用論の知見とも軌を一にする。

１．はじめに

現代日本語では、「実際」「事実」「結果」「あげく」といった名詞に多様な用法が認められる（髙橋 2012、三枝 2013）。例えば、「結果」については『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』に次のような用法がある（東泉・髙橋 2013、髙橋・東泉 2013）[1]。

(1) 今日のヒアリングの結果ですが、・・・（OB1X_00075、特定目的・ベストセラー、山崎豊子『不毛地帯』、新潮社、1978 年）

(2) a. 今年後半のコンディションの安定ぶりには満足しているようだ。その結果として、ファーストステージの４ゴールに対して、セカンドステージでは一気に・・・（PM11_00739、出版・雑誌、『ストライカー』、学習研究社、2001 年）

b. 三十票ほど違っていることが分かり、同市選管があらためて点検した結果、ミスに気づいた。（PN5g_00006、出版・新聞、『西日本新聞』、西日本新聞社、2005 年）

(3) a.怒った音羽は仲舒に悪態の限りをつき、結果、 彼女といっしょに放り出されたのだ。(PB1n_00057、出版・書籍、伊藤遊『えんの松原』、福音館書店、2001 年）

b. この件に近い内容で、結局居住者の承諾を取らず無断で立ち入った案件がありました。結果、居住者は 300 万円相当の腕時計と指輪がなくなったと主張し警察を呼び

[1] 以下の用例の下線は筆者らによる。『BCCWJ』の用例には、順に、サンプル ID、レジスター、執筆者（書籍）、書名、出版者、出版年を記す。近代語コーパスの雑誌からの用例には、雑誌名、出版年・号、著者、題名を記す。

ました。（OC08_01946、特定目的・知恵袋、2005 年）

(1)は、格助詞やコピュラを伴う典型的な名詞としての用法である。(2)は、「結果」は名詞だがこれを含む句や節が副詞として機能している、名詞と副詞のいわば中間的な用法である。この用法は、「結果」に「として」等の複合助詞が後接するか否かにより、a.は名詞寄り、b.は副詞寄りの用法と考えられる。(3)は「結果」が単独で副詞として機能している用法で、a.は文中、b.は文頭に位置している。後者の用法は、「結果」の実質的意味が希薄化し、談話標識的用法に近づいていると見ることもできる。しかし、近代語コーパスから「結果」の用例を採取した東泉・髙橋（2013）、髙橋・東泉（2013）では、これらの用法の出現・成立に至る過程について詳しく観察することができなかった。

そこで、本稿では、まず「結果」の近代以前の用例を確認し、次いで近代以降の用例を詳細に観察・記述することにする。近代語の用例は、『明六雑誌コーパス』『近代女性雑誌コーパス』『太陽コーパス』から収集する。そして、「結果」の用法を通時的に検討し、現代語の副詞的・談話標識的用法につながる過程について考察する。

２．近代以前の「結果」

『日本国語大辞典　第二版』には、「結果」という語の初出例として(4)が挙げられている。また、同辞典には、(5)の中国元代の用例や、もとは仏教語であるとする補注[2]もある。

(4) 「人民の情と合和して、かかる結菓となりしなり」中村正直訳『自由之理』(1872)
(5) 「風餐水宿、甚日能安妥、問天天怎生結果」『琵琶記』

本節では、近代以前の「結果」の用例を確認する。まず、Japan Knowledge Lib により『新編日本古典文学全集（小学館）』の古典本文における「結果」を文字列検索したところ、計６例がヒットした。しかし、その意味はいずれも、表１に示す通り、現代語とも、また、仏教語とも異なるものであった。

表１　『新編日本古典文学全集』における「結果」の用例

ふりがな	意味	用例数	作品名	成立
かくなは	紐を結んだ形をした、油で揚げた菓子。また、その菓子の形のように縦横に切り結ぶこと。	1	「酒伝童子絵」	室町
おしかたづく	かたづける。始末をつける。	1	「しりうごと」	江戸
		4	『近世説美少年録』[3]	江戸

次に、19 世紀後半の辞典類から、「結果」に関する記述を調べ、次頁の表２にまとめた。西洋の思想や学問上の概念の訳出にあたり、中国で編纂された華英・英華辞典が幕末から明治の日本にも大きな影響を与えたことはつとに知られているが、Morrison（1815-23 刊）

2 【補注】「忠義水滸伝解 - 二一回」には、「結果モトハ仏語也。ソレヨリ転シテ万事物事ノシマイヲツケ片付ルコトニナルナリ」とある。

3 新編日本古典文学全集『近世説美少年録』（一、p.150）には、「結果　此仏語ナリ。シモフテノケルト云フガ如シ。シマイツケルコト（水滸伝字彙外集）」という注がある。

や Medhurst（1842-43 刊）の華英辞典の「結」の項には、「結果」という語は見当たらない。一方、Lobscheid の英華辞典の記述を見ると、「結果」という１つの語はこの頃未成立であり、「結」という動詞と「果／菓」という名詞としてそれぞれ用いられていたようである。その後、1870 年代から 80 年代にかけ、「結果」という語が成立し、現代につながったかと想像されるが、現段階では断定できない。更なる調査が必要である。

表２　19 世紀後半の辞典における「結果」の記述

編著者	辞典名	発行年	記述
Lobscheid	『英華辞典』	1866-68	Result to result from, 故、帰結、結局、 to result in good,　結好菓、to result in evil 結悪菓 Result, consequence　果、果実 What are the results?　結何果乎
ヘボン	『和英語林集成』第三版	1886	KEKKWA　ケックヮ　結果 (*dekibai*) Effect, result, consequence.
高橋五郎	『漢英対照いろは辞典』	1888	けつくわ（名）結果。できばえ。み。なりはて。Result.
大槻文彦	『言海』	1889-91	けつ-くわ（名）　結果（和漢通用字）　事ノデキバエ。ナレノハテ。
物集高見	『日本大辞林』	1894	けつくわ　ナ（なことば＝名詞）。結果。でき。できざま。できばえ。

３．近代語コーパスにおける「結果」

３．１　「結果」の用法

本節では、19 世紀後半から 20 世紀初頭の近代語コーパスを用い、「結果」という語の様相を観察する。使用するコーパスは、国立国語研究所による『明六雑誌コーパス』『近代女性雑誌コーパス』『太陽コーパス』である。検索ツールには、「ひまわり」を用いる。

まず、それぞれのコーパスの概要と、「結果」の使用頻度を表３にまとめる。各コーパスの延べ語数は、『明六』は近藤（2012）、『女性雑誌』・『太陽』は近藤（2014）による。

表３　近代語コーパスと「結果」の用例

コーパス			「結果」	
略称	収録年	延べ語数	用例数	度数/1 万語
明六	1874－75	180,605	1	0.06
女性雑誌	1894－95	586,665	102	1.74
	1909	406,889	53	1.30
	1925	272,325	30	1.10
女性雑誌　計		1,265,879	185	1.46
太陽	1895	2,031,346	622	3.06
	1901	1,929,238	899	4.66
	1909	1,725,992	948	5.49
	1917	1,619,638	812	5.01
	1925	1,456,055	580	3.98
太陽　計		8,762,269	3,861	4.41

『明六』は、(6)の一例のみである。これは、(4)とともに「結果」のごく初期の例であり、用法も典型的な名詞である。

(6)　其志向制御し易き人民を以て成立する處の國に於て苟も妄想空思行はれ愈信じて其迷を深するに至らば其結果又それ如何ぞや 人皆世事を顧みずして終に生業も廢するに至るべし（『明六雑誌』1874 年 6 号、森有礼訳「宗教」）

次に、『女性雑誌』の用例を用法別に分類し、表４にまとめた。

表４　『近代女性雑誌コーパス』における「結果」の用法[4]

発行年	用例数	用法	具体例	用例数	%
1894	41	名詞	名詞	35	85.4%
		中間的(名詞寄り)	N の結果として	2	14.6%
			その結果として	1	
			その N の結果として	1	
			V 結果として	1	
			N の結果により	1	
1895	61	名詞	名詞	53	86.9%
		中間的(名詞寄り)	N の結果として	3	6.6%
			その N の結果として	1	
		中間的(副詞寄り)	N の結果	2	4.9%
			V 結果	1	
		保留		1	
1909	53	名詞	名詞	40	75.5%
		中間的(名詞寄り)	この結果として	1	5.7%
			N の結果として	1	
			V 結果として	1	
		中間的(副詞寄り)	N の結果	2	18.9%
			その結果	1	
			V 結果	6	
			V の結果	1	
1925	30	名詞	名詞	13	43.3%
		中間的(名詞寄り)	その結果として	2	6.7%
		中間的(副詞寄り)	N の結果	3	50.0%
			その結果	4	
			V 結果	8	

[4] N＝名詞（句）、V＝動詞（句）。保留とした１例は、次のものである。「◎神戸外國婦人慈善會　昨年中の報告によれば前年の繰越金に合せ義捐金合計四百四十五弗四十七セン。（略）殘餘金二百十九弗七十七センありと。役員撰擧の結果　マクタビツシ夫人、ルーカス夫人、（略）アベル夫人等を委員とせり。」（『女学雑誌』1895 年 2 号、著者不明「片々」）下線部が見出しであれば名詞、本文の一部なら「N の結果」に分類される。同様の例は『太陽』にも数例見出せる。見出し的なものが本文化して副詞寄りの用法へ拡張していった可能性も考えられる。

表４からは、典型的名詞用法から、中間的用法（名詞寄り）、さらには中間的用法（副詞寄り）へ、用法が拡張しているさまが見てとれる。

『太陽』においても、用法拡張のさまは同様である。さらに、『太陽』には次のような例も見出せる。

(7)　彼等の刹那的な所はモダン・ガールの刹那的な所と本質的には全然の異質でありながら、結果的には交響するのではないか。（『太陽』1925 年 11 号、新居格「近代女性の社会的考察」

(8)　二十四日（日）◎公友中正合同成立　公友派は午後二時帝國ホテルに代議士會を開き合同問題を附議し結果全權を木村青木田中大木九鬼五氏に委任し五氏は合同を決して中正會に交渉し（『太陽』1917 年 2 号、著者不明「日誌」）

(9)　政本合同をやつて現内閣を倒すなどの荒藝は出來ない。結果野垂れ死ぬまでズラ～～グツタリで行くだらうと云ふのだ。（『太陽』1925 年 4 号、鬼谷庵「政界鬼語」）

(7)は、今回の調査範囲における「結果的」の初出である。(8)では、「結果」が文中で単独で副詞として用いられている。(9)は文頭の例である。なお、国立国語研究所コーパス開発センターによる『青空文庫パッケージ』からは、(10)の例も見出された。ここまでの調査の範囲では、「結果」の副詞用法の初出は(10)、その文頭の初出は(9)である。『日本国語大辞典　第二版』では(11)が初出となっているが、大きく遡るのは確かである。

(10)　のでありますから、結果其物も亦三様の類型に（朝永三十郎「学究漫録」、初出「精神界　第二巻一一、一二號」1902 年 11、12 月）

(11)　女にはなぜ作曲家がいない？「そこで、女のものの考え方について非作曲家的なところを考えてみた。結果、女の考え方というのは、１＋１は２であるということだ」（藤本義一 1974～75「男の遠吠え」、『日本国語大辞典　第二版』「結果」の項）

３．２　「結果」の位置

「結果」の用法拡張により、現代語では文副詞的・談話標識的用法も見られるようになっている（髙橋 2012、東泉・髙橋 2013、髙橋・東泉 2013）。このような用法成立の端緒を探る試みの一つとして、本節では、「結果」の文中での位置を検討する。

『女性雑誌』コーパスでは、名詞用法および保留以外の「結果」は計 43 例、うち、その記事に句読点がともに用いられているのは 36 例である。その中で、句点もしくは読点のあとの用例をまとめたものが、次頁の表５である。

「結果」の用法拡張の過程において、初期の段階では「中間用法（名詞寄り）」に「N の結果において」「V 結果として」といった多様な形式が見られるが、やがて「結果」の先行部分は「その」に、後続部分は「として」に収斂されていき、さらに、先行・後続部分の脱落により単独で副詞として用いられるようになったと考えられる（髙橋・東泉 2013）。後続部分が脱落した「その結果」は、『太陽』コーパスでは 1895 年にすでに 19 例用いられており、『女性雑誌』コーパスでも 1909 年から出現する。一方、先行部分が脱落した形

式の「結果として」は両コーパスとも例がない[5]。用法拡張は直線的な過程ではなく、複雑な様相を呈しているが、表５からは、後続部分が脱落した「その結果」が、句読点とともに用いられているさまが見てとれる。

表５　『近代女性雑誌』コーパスにおける「結果」の用法と句読点

句読点との関係	X＝用法	年	用例数
句点＋X	この結果として	1909	1
	その結果	1909	1
	その結果	1925	1
句点＋接続詞＋X	そのNの結果として	1894	1
	その結果	1925	1
読点＋X	V結果として	1894	1
	Nの結果	1895	2
		1909	2
		1925	2
	V結果	1925	1
	その結果として	1925	1
	その結果	1925	2
合計			16

(12) そのまゝ解剖して見るやうなことになりました。その結果、肺病の初發病竈は、以前は肺尖だと云ふことになつて居たが（『婦人倶楽部』1925 年 6 号、宮原立太郎、「肺病並に結核病の話」）

(13) 人格ある人を選み取ることが出來ないからである。 而して其の結果、人を泣かせ又た自らも苦しむといふは、（『婦人倶楽部』1925 年 6 号、中島徳蔵、「異国人に恋されて悩む青年へ」）

(12)は「句点＋X」、(13)は「句点＋接続詞＋X」の例であるが、ともに読点が後続しており、文中での独立度は高い。現代語に見られる「結果」単独の副詞用法は、このような独立度の高い「その結果」から拡張が進行したのではないかと思われる。用例数の多い『太陽』コーパスにおける様相はより複雑であるが、基本的には同様の傾向が観察される。

３．３　現代語と異なる用法

近代語コーパスにおける「結果」には、現代語とは異なる用法がいくつか観察される。本節では、そのような用法の観察・記述を試みる。

３．３．１　「悪結果」など

近代語コーパスには、「結果」を含む漢語の複合語が観察されるが、現代語では使用されないものもある。

(14)　それと共に此の戰爭中の經濟状態は所謂變態である事も思はなければならぬ。戰爭

[5] 『太陽』には「結果において」４例、「結果的に」１例があるが、『女性雑誌』には見られない。

の直接結果として起つた各種の商工業は殊にさうである。（『太陽』1917 年 1 号、団琢磨、記者（文責）「事業界一夕話」）

(15) 元來人爲的の淘汰といへば、此の人爲的の發動の位置に立つ者は、自然淘汰の第一結果に由りて、勢力の比較に基因し、（『太陽』1895 年 3 号、千頭清臣「戦下側面的観察」）

(16) 此を誤診して腹部按摩をなし、若しくは自轉車を用ゐしめて、爲に悪結果として胃出血を起すが如きは、 大に少し。（『太陽』1901 年 9 号、吉田生（抄訳）「胃病と自転車」）

(17) それで獸の體や四肢にあんな隈取りをしたのが問題になつて居ましたが、 僕は不結果に終つたとは思ひません。（『太陽』1917 年 12 号、山村耕花「美術院日本画作家の感想」）

『女性雑誌』『太陽』コーパスを通じて「直接結果」は(14)の 1 例のみだが、「第一結果」は『太陽』に(15)を含め 2 例、「悪結果」は『女性雑誌』に 1 例、『太陽』には(16)を含め 20 例が観察される。「不結果」は『太陽』に(17)を含め 17 例、また、「大結果」も『太陽』に 3 例ある。(14)(15)は「中間的用法（名詞寄り）」に分類されるものだが、『BCCWJ』にはこのような漢語はなかった。また、(16)の「悪結果」は『BCCWJ』に 2 例あったが、いずれも名詞として使用されており、「悪結果として」という用法はなかった。(17)の「不結果」も『BCCWJ』にはなかった。一方、「好結果」は『女性雑誌』15 例、『太陽』77 例、『BCCWJ』45 例である。「好結果」「悪結果」は、Lobscheid の英華辞典の記述を想起させ、「結果」の近代語における用法として注目される。

３．３．２　「活用語連体形＋の＋結果」

活用語の連体形の主要な機能は、体言に連なりそれを修飾することであるが、近代語コーパスには、連体形と「結果」の間に「の」を介在させる用法が観察される。

(18) 佛蘭西の著者は獨逸に於ては保護を受けざるも獨逸の著者は佛蘭西に於いては保護を受くるの結果を來し、其間に公平を得ることが出來ないのである、（『太陽』1909 年 6 号、水野錬太郎「伯林に於ける著作権保護万国会議の状況」）

(19) また簡潔明瞭主義の君は、直に其本性を發露して、此間他の批評思惑等を考ふる餘裕なきの結果なるべきも、他の一方よりは確に不用意、修練不足なりとの謗りを免れぬ。（『太陽』1909 年 11 号、川尻琴湖「個人としての犬養木堂君」）

(20) また「デモクラツト」黨が「ボーア」問題によつて益英國に悪感情を抱きクルーゲルに渾身の同情を寄するの結果其感情が端なくも前例を楯として紐育市廳半旗を掲げざるの現象をなせしなり（『太陽』1901 年 5 号、森山吐虹「特別通信　英国女皇陛下の崩御と米国の態度」）

「の」を介在させるこのような用法は、(20) の「掲げざるの現象」にも見られるように「結果」以外の名詞にも見られる。また、(18)の波線部に見られるように、同一文中で「ない」「である」といった口語体の助動詞を用いながら、「活用語連体形＋の＋結果」の箇所では「受くる」といった文語体の活用形を用いている例も少なくない。更に綿密な観察が必要である。

３．３．３　「連用修飾＋動作性名詞[6]＋の＋結果」

「動作性名詞＋の＋結果」の場合にも、現代語とは異なる用法が観察される。

(21) 以前は肺尖だと云ふことになつて居たが、このＸ光線を應用の結果、主として肺門部が先に冒されると云ふことが分つて來て、（『婦人倶楽部』1925 年 6 号、宮原立太郎「肺病並に結核病の話」）

(22) 而して其の直接の衝に當るものは、 郵船會社ならざる可らず、 會社また多年之に意あり、 久しく調査の結果、其の外國航路に延長を希望する所は、 歐洲線、 濠洲線、 米國線とす、（『太陽』1895 年 11 月、著者不明「工業」）

現代語では、(21)は「このＸ光線を應用した結果」あるいは「このＸ光線の應用の結果」、(22)は「久しく調査した結果」あるいは「久しい調査の結果」とするところであろう。動詞と名詞の境界線上に位置する動作性名詞の用法は、現代語より近代語のほうが柔軟であったのかもしれない。これも、「結果」だけにとどまらない現象であると思われる。

４．まとめと課題

本稿では、漢語名詞「結果」について、まず近代以前の用法を調査し、次に近代語コーパスから収集した用例を用法別に分類した。そして、典型的な名詞用法から、中間的（名詞寄り）すなわち副詞句・節を構成する名詞としての用法へ、さらには中間的（副詞寄り）用法へと用法が拡張しているさまを観察した。また、近代語コーパスの「結果」の用法には現代語とは異なるものがあることも指摘した。

今回の調査・観察から、次のようなことが言えそうである。

- 「結果」の語は、幕末から明治の初めごろ、現代のような意味で用いられるようになったと考えられる。
- 「結果」の用法は、典型的名詞用法から名詞と副詞の中間用法を経て副詞用法に拡張したと考えられるが、そのプロセスは直線的ではなく複雑である。
- 「結果」を用いた副詞句・節の用法は、時の経過とともに、形式が簡略化され、且つ句読点の直後に用いられる例が増えてくる。このような例が、現代語の副詞的・談話標識的用法につながっていくと思われる。

以上のような仮説を立証するため、今後、歴史語用論（高田他 2011、金水他 2014、Onodera 2004、Onodera 2014 など）の理論的枠組みに基づき考察を深めるとともに、「結果」の近代から現代へかけての用法拡張の過程のより詳細な分析を行い、他の漢語名詞で「結果」と似たような用法拡張の過程を辿っていると考えられる語と比較しつつ、文頭または文中での副詞的・談話標識的用法への拡張の過程について更に検討することを目指したい。

---

[6] 動作性名詞とは、サ変動詞「する」を伴い、動詞として用いられる名詞。スル名詞、サ変名詞、動名詞などとも呼ばれる。

文　献

金水敏・高田博行・椎名美智編（2014）『歴史語用論の世界』ひつじ書房

近藤明日子（2012）「『明六雑誌コーパス』の語彙量」国立国語研究所共同研究報告 12-03『近代語コーパス設計のための文献言語研究成果報告書』pp.144-149.
(http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/doc/08kondo.pdf よりダウンロード可能)

近藤明日子（2014）「『近代女性雑誌コーパス』の小説会話部分に現れる一・二人称代名詞の計量的分析」国立国語研究所『第４回コーパス日本語学ワークショップ』、pp.135-144.
(http://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/files/JCLWorkshop_no4_papers/JCLWorkshop_No4_17.pdf よりダウンロード可能)

三枝令子（2013)「名詞から副詞、接続詞へ」『一橋大学国際教育センター紀要』4、pp.49-61.
(http://hdl.handle.net/10086/26706 よりダウンロード可能)

高田博行・椎名美智・小野寺典子編著（2011）『歴史語用論入門』大修館書店

髙橋圭子（2012）コーパスにみる名詞句の文副詞的用法」第 10 回対照言語行動学研究会
(http://www.ryu.titech.ac.jp/~nohara/taishogengokoudou/files/abst10/abst10_5takahashi.pdf)

髙橋圭子・東泉裕子（2013）「漢語名詞の副詞用法～『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『太陽コーパス』を用いて～」国立国語研究所『第４回コーパス日本語学ワークショップ』、pp.195-202.
(http://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/files/JCLWorkshop_no4_papers/JCLWorkshop_No4_24.pdf よりダウンロード可能)

東泉裕子・髙橋圭子（2013）「『結果、こういうことが言えそうです』～コーパスにみる名詞の文副詞的用法～」国立国語研究所『第３回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』、pp.91-96.
(http://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/files/JCLWorkshop_no3_papers/JCLWorkshop_No3_12.pdf よりダウンロード可能)

Onodera, Noriko O. 2004. *Japanese Discourse Markers: Synchronic and Diachronic Discourse Analysis*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

Onodera, Noriko O. 2014. Setting up a mental space: A function of discourse markers on the left periphery (LP). In *Discourse Functions at the Left and Right Periphery: Crosslinguistic Investigations of Language Use and Language Change*, Kate Beeching & Ulrich Detges (eds). Leiden: Brill.

辞　典

日本国語大辞典編集委員会（2000-2002）『日本国語大辞典　第二版』小学館

飛田良文、松井栄一、境田稔信編（1997-1998）『明治期国語辞書大系　普及版』大空社
第二巻『漢英対照いろは辞典』・第五巻『日本辞書言海』・第八巻『日本大辞林』

ヘボン、J. C.、松村明解説（1980）『和英語林集成　復刻縮刷版』講談社学術文庫

Lobscheid, W.、那須雅之（1996）『英華辞典　復刻版』東京美華書院

Medhurst, W. H.（1994）*Chinese and English Dictionary.* 復刻版　東京美華書院

Morrison, R.、帳西平、彭仁賢、呉志良編（2008）『華英辞典　影印版』鄭州：大象出版社

コーパス

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言 1.1.0』（BCCWJ）
（https://chunagon.ninjal.ac.jp/）
国立国語研究所『近代女性雑誌コーパス』
（http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/woman-mag/）
国立国語研究所『明六雑誌コーパス』（http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/cmj/meiroku/）
国立国語研究所(2005)『太陽コーパス』（国語研究所資料集 15）　博文館新社

関連 URL

国立国語研究所コーパス開発センター　http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/
Japan Knowledge Lib　http://japanknowledge.com/library/